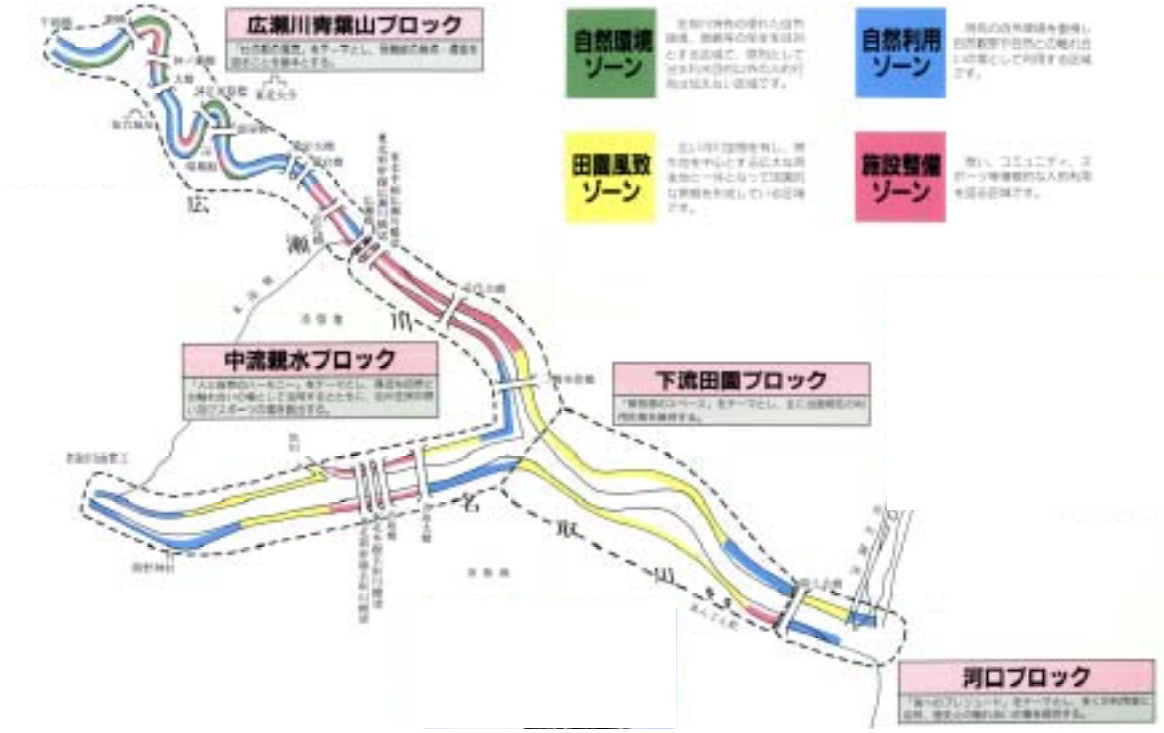
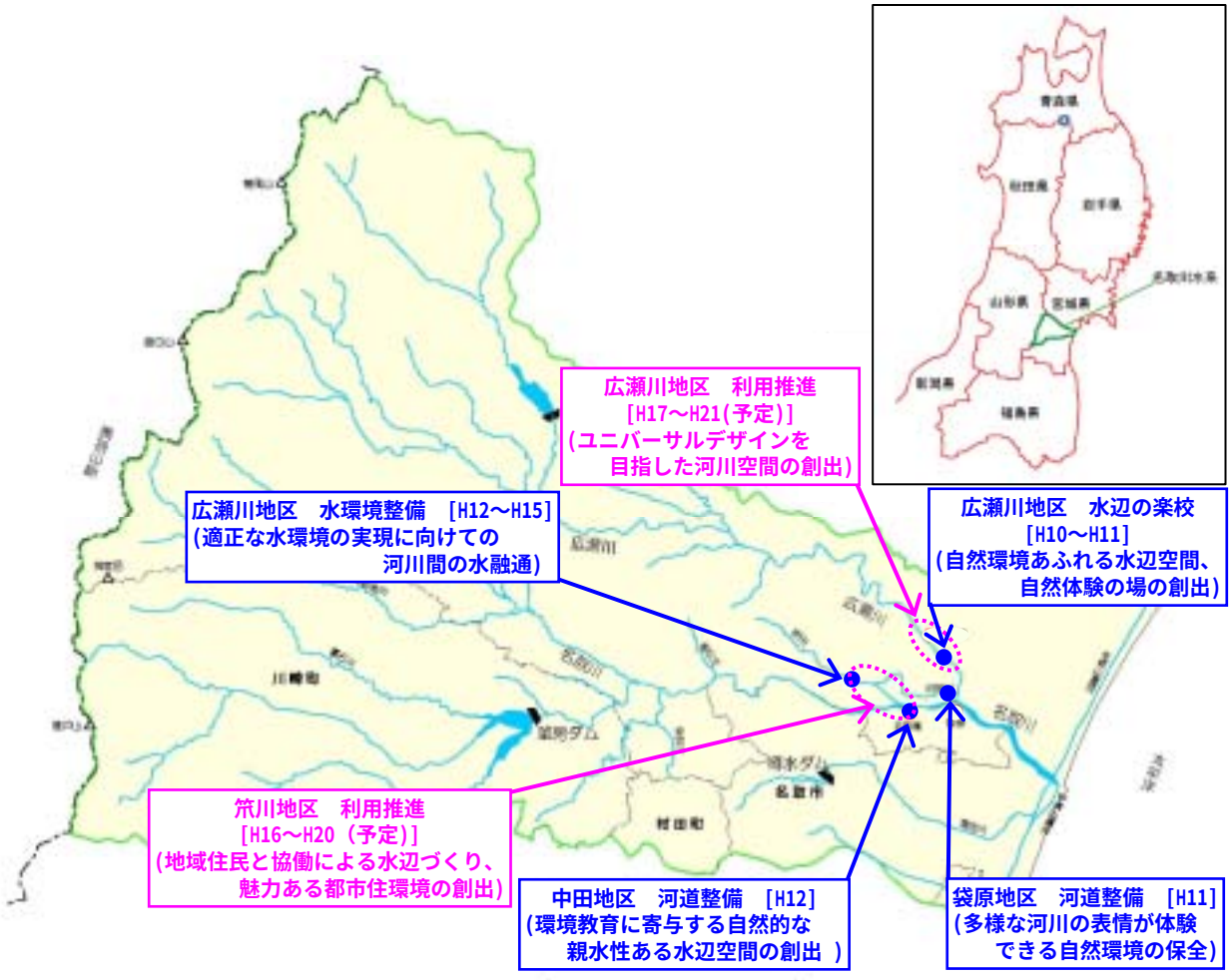
<table>
<tr><td colspan="2">事業名</td><td>名取川水系直轄総合水系環境整備事業</td><td>事業主体</td><td>東北地方整備局</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業の概要</td><td>事　業
区　間</td><td>自：
（左岸）
宮城県仙台市若林区河原町
（右岸）
宮城県仙台市太白区長町
至：
（左岸）
宮城県仙台市若林区日辺
（右岸）
宮城県仙台市太白区郡山</td><td>整備内容</td><td>整備済：
【広瀬川】
広瀬川地区　水辺の楽校
広瀬川地区　水環境整備
【名取川】
袋原地区　河道整備
中田地区　河道整備
整備中：
【広瀬川】
広瀬川地区　利用推進
【笊　川】
笊川地区　利用推進</td></tr>
<tr><td>事業着手</td><td>平成 10 年度</td><td>工事着手</td><td>平成 10 年度</td></tr>
<tr><td>全体事業費</td><td colspan="3">19.9 億円（平成 19 年度まで進捗率 88.3%）</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">・仙台市における「広瀬川の清流を守る条例」の制定
・良好な景観の場であるという住民意識の拡大
・河川敷のスポーツ利用の需要増大
・河川空間利用の促進を図るため「名取川河川公園連絡協議会」を設立
以上のような社会的背景のもと、治水、利水機能を維持しながら、河川空間環境の適正保全と利用に関わる指針を示し、適切な管理に資するため、昭和 63 年度に「名取川河川環境管理基本計画」が策定された。

基本理念：(健全な都市機能の育成)杜の都のふさわしい緑ある、きれいな水の流れる河川空間を保全
(パーソナリティの高揚)身近な自然と触れ合う場として河川空間を創出
(地域の活性化への寄与)憩い、コミュニティ、スポーツのための河川空間を創出
(アイデンティティーの追求)自然、歴史的環境と眺望を生かした河川空間を創出



「名取川河川環境管理基本計画」では、流域を４つのブロックに分け、各ブロックにテーマを設定している。事業実施区域である中流部は、仙台平野から丘陵に差し掛かる場所であり、比較的良好な自然環境を有している一方、堤内地は市街化が著しく、河川空間は都市における貴重な空間となっていることから、“「人と自然のハーモニー」をテーマとし、身近な自然との触れ合いの場として活用するとともに、沿川住民の憩い及びスポーツの場を創出するブロック”と位置づけられている。
当該事業は、以上の方針に基づいた河川空間の整備を進めるために実施するものである。</td></tr>
</table>

概略位置図



事業内容

1.概　要

名取川は、川面と市街地との間にはかなり高低差があることから、都市河川でありながら、自然が多く残っている。

本事業は、名取川のもつこうした河川環境を活用し、

・河川環境を活用し、地域住民等の余暇活動及び自然体験活動等の充実を図る

・誰もが安心して川で遊び、学べるように親水護岸、散策路等の整備を実現することにより、水辺利用の推進を図る

などを目的として、都市部において自然豊かな水辺空間を地域住民へ提供するため、親水性・景観性に優れた水辺環境の整備を実施するものである。

整備のポイントとしては、以下のようなことが挙がられる。

・地域の持つ多様な個性を活かし、魅力ある水辺空間の整備を推進

・地域との協働による川づくりを推進

・生態環境を保全しつつ、自然と触れあえる機会の創出を目指した川づくりを推進

・良好な景観の維持・形成を図る川づくりを推進

2.実施内容

総事業費：19.9 億円

事業期間：平成 10 年度～平成 21 年度

整備内容：名取川水系の直轄区間における環境整備事業（宮城県内）

事業内容

【整備済（広瀬川）】

●広瀬川地区　水辺の楽校

～自然環境あふれる水辺空間、自然体験の場の創出～

➢　事業概要

（背景）八本松小学校と若林小学校にはさまれて流れる広瀬川は、子供達の遊び、自然体験の場として格好の場所となっており、小学校、地域住民、仙台市から環境整備に対する強い要望が寄せられ、平成９年１月に「水辺の楽校プロジェクト」に登録を行った。
その後、地域住民や学校関係者から構成される「広瀬川水辺の楽校プロジェクト事業推進協議会」を設立し、地域住民の声を反映した整備、管理について検討が行われた。

（概要）協議会での議論を経て、“身近な自然の楽しみ方を学ぶ”・“川の作用や治水について学ぶ”・“地域の歴史や文化について学ぶ”をキーワードに仙台市と連携した自然環境学習のフィールドとして親水性、利活用性に配慮した環境整備を実施した。

（効果）整備完了後は、地区町内会連合会、ＮＰＯ法人が主体となり、地域主導のもと清掃活動が積極的に実施されている。また、日常的な親水活動、市民団体等が開催するイベント、総合学習の場としての活用されているほか、水面では灯籠流し、アユ釣りなどの利活用が盛んである。

➢　整備内容：緩傾斜堤防、アクセス施設整備（階段・スロープ）、高水敷整正



【河川利用状況】



総合学習（カヌー教室）



総合学習（水生生物調査）

事業内容

【整備済（名取川）】

●袋原地区　河道整備

～多様な河川の表情が体験できる自然環境の保全～

➢　事業概要

（背景）仙台市では、名取川と広瀬川合流部にもつ景観的特徴を踏まえ、緑の保存と創出を基本方針とした整備計画を持ち、河川等の緑と有機的に連携を図る美しい杜の都の形成を目指している。対象地区の背後地では、旧笊川の遊水地堤内の緑地公園整備が進み、名取川の高水敷とを一体化させるため、堤防を緩傾斜化する事業が進められている。

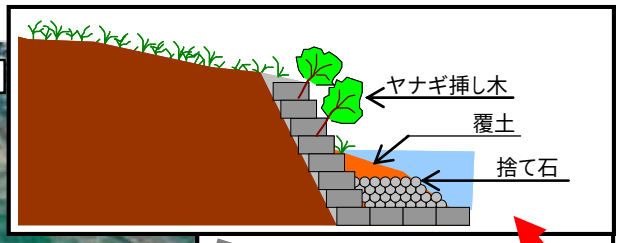
また、従前の河川改修では、旧河道は埋められてしまうのが通例であったが、地域からの要望として、周辺の緑地整備と地域の源風景、また、生態系豊かな自然環境とふれあう場を保全、確保することなどが挙げられていた。

（概要）“水辺と緑地が一体となった利用拠点の創出”、“周辺環境と調和した景観の保全・創出”、“河畔林など自然環境の保全・復元”・“公園と水辺の有機的な関係の構築”・“自然観察学習、自然とのふれあい”などを目的し、当該地区に生息する水辺の生態系全体を視野に入れ、生態環境を保全する整備を生態学専門家の助言を得つつ、自治体との密接な連携のもと、改修により生じた広瀬川旧河道の敷地に多様な生物の生息場となる水辺のワンド整備を実施した。

（効果）最近では野鳥など自然観察会の活動がなされ、自然との良好な関わりを築いており、仙台市では、そのままの姿で保全された自然のフィールド（サンクチュアリ）で、自然と人がふれあい、楽しむことができるよう（野鳥・自然観察など）、現況を保全しつつ利活用の向上に向けた整備の在り方などについての検討会を設置し、現在、計画を立案中である。

➢　整備内容：ワンドによる水辺整備







【河川利用状況】



自然環境と触れ合う
ための自然観察会



[ハグロトンボ]
河川の川岸で見られ、水生植物のはえたゆるい流れを好む

[クロベンケイガニ]
生息場所は主に水辺で、陸上に穴を掘って生活する



ワンドに棲む生物たち

事業内容

【整備済（名取川）】

●中田地区　河道整備

～環境教育に寄与する自然的な親水性ある水辺空間の創出～

➢　事業概要

（背景）仙台市では、仙台グリーンプラン 21(緑の基本計画)に基づき、名取川中流部を緑地公園整備地区の一つとして位置づけ、河川事業との連携による開放的な水辺、背景の建築物や街並みとの調和が良好に保たれた水辺、生物の生息・生育環境としての水辺の実現に向け、まちづくりと調和した一体的整備を切望している。

周辺には、小学校・福祉関連施設が複数存在し、リハビリテーションの場などとして川の果たす機能は大きく、平成 11 年、地域住民が組織する「名取川中流部の環境整備を考える会」が設立された。現在も「考える会」主催により、当該地区河川整備の清掃活動ならびに先例地視察などが自主的に行われており、地域の川への思いは非常に強い。

（概要）整備計画検討に先立ち、地域住民の川への関心を喚起し、実際に使用する子供の視点を計画に反映するなどして、名取川の自然を生かした地域振興、環境教育に寄与する自然的な親水性ある水辺区間の整備を実施した。

（効果）釣りや水遊び、自然環境学習のフィールド（水生生物調査、サケの稚魚放流）として河川空間が利用され、週末は親子でのバーベキュー、芋煮会を行う姿が盛んに見られる。

➢　整備内容：親水護岸の整備



整備状況写真

【河川利用状況】


芋煮会を楽しむ人々


イベント開催の様子
（体験　みんなの名取川）

事業内容

【整備済（広瀬川）】

●広瀬川地区　水環境整備

～適正な水環境の実現に向けての河川間の水融通～

➢　事業概要

（背景）広瀬川は、夏場の渇水時には流量低下が著しく“瀬切れ”、“異臭の発生”、“魚類の斃死”など河川環境に多大な影響を及ぼしていた。平成 6 年の渇水では、“魚の大量死”がマスコミで大きく取り上げられ、この渇水を契機として市民の川への関心が高まり、「生態系を守る豊かな清流を取り戻そう」という動きが始まった。

（概要）市民の幅広い論議と強い願いを受け、適正な水環境を維持していける施策をと、仙台地域水循環再構築（アクションプログラム）に基づき、名取川より水を導水し、広瀬川および旧笊川の水量を確保する施設整備を実施した。

導水を行うにあたり、釜房ダムの未利用水を利用し、導水路として既存の農業用水路、雨水幹線水路、宮城県管理河川を利用した。

（効果）導水により、生態系の保全が図られ、水辺の利活用が増進、良好な景観も保全されるなど、環境維持に大きく寄与している。

➢　整備内容：導水施設（取水ポンプ場）、流量観測施設の設置



逆流防止施設

導水施設　取水ポンプ場

【導水による流況改善】

瀬切れ発生時の状況（Q=0m³/s）



導水後の状況（Q=0.4m³/s）



事業内容

【残事業（笊川）】

●笊川地区　利用推進

～地域住民と協働による水辺づくり、魅力ある都市住環境の創出～

➢　事業概要

（背景）笊川は放水路として整備された河川であるため、景観上は、人工的な水路を思わせていた。近年になり、笊川沿川で地下鉄の開通、土地区間整理事業などによる都市化が進んだことをうけ、地域住民から水辺空間の親水性向上、良好な河川環境のレベルアップなどが要望として挙げられるようになった。

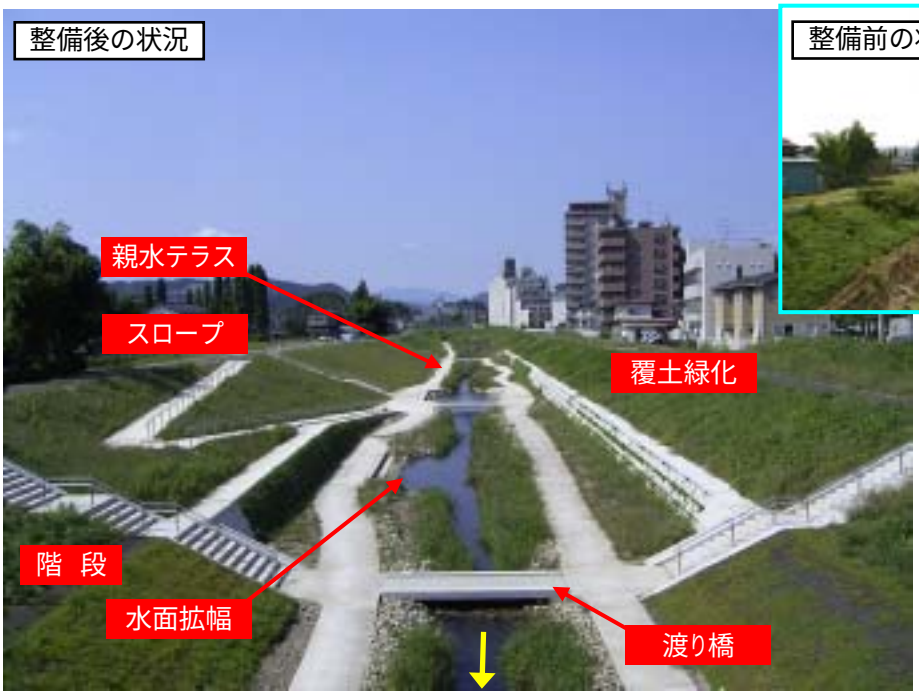
（概要）“地域住民と協働による水辺づくり”・“魅力ある都市住環境の創出”などを目的に、水辺へのアクセス路として坂路・階段・拠点整備を行い、水辺を活かしたまちづくりの支援を実施した。

整備計画策定のプロセスとして地域住民と対話を重ね、また、整備後も維持管理に関する対話と体験会を重ねており、地域からより親しまれる水辺の実現にむけ活動中である。

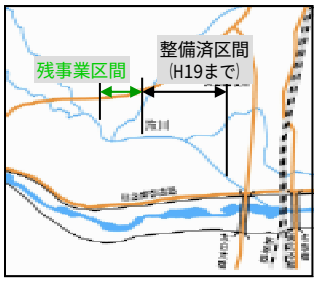
（現状）川と周辺の環境向上に呼応して、子供たちの遊ぶ姿が日常的になり、遊歩道には散策を楽しむ人々が行き交うようになり、市民と行政の努力もあって、沿川ではホタルが飛び交い、サケの遡上も確認されるようになった。

整備によって生まれ変わった河川に対し、地域住民の意識も変わり、河川清掃活動など川を守り育てる活動が積極的に始まり、地域に結びつきが促されている。

➢　整備内容：都市景観に配慮した緑化護岸、アクセス施設整備（階段・スロープ）、散策路整備







【河川利用状況】



人を水辺に誘う階段



人々で賑わう水辺



近隣住民による清掃活動

事業内容

【残事業（広瀬川）】

●広瀬川地区　利用推進

～ユニバーサルデザインを目指した河川空間の創出～

➢　事業概要

（背景）仙台市長町周辺では、バリアフリー化を積極的に推進した各種まちづくり事業が展開され、住民構想としても車椅子を利用したタウンモビリティ構想を持ち、広瀬川に多くの人々が安全にふれあえる社会福祉等の向上を目指す水辺空間整備の要請が高まった。そこで地域社会の熱意と願いにより、障がい者並びに地域住民等との協働作業のもと整備プランの立案を行った。

（概要）市民団体が主体となり広瀬川の利用環境改善に向けた課題・問題点を明確化し、また、今後取り組むべき川づくりについての意見交換を行い、街と水辺を結ぶバリアフリーネットワークを構築するため、ユニバーサルデザインを目指した安全でスムーズに水辺に近づける施設整備を推進し、弱者に対する積極的な支援を図った。

（現状）現在、地元との協議体制による対話を積極的に進め、地域住民等との信頼関係を構築しながら事業を展開している。

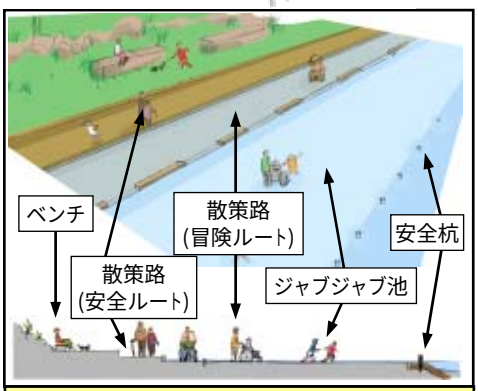
➢　整備内容：親水護岸の整備、アクセス施設整備（階段・スロープ）

整備構想平面図





【河川利用状況】



親水護岸の整備イメージ



整備された階段の利用

障がい者（車椅子）による現地体験・勉強会の様子



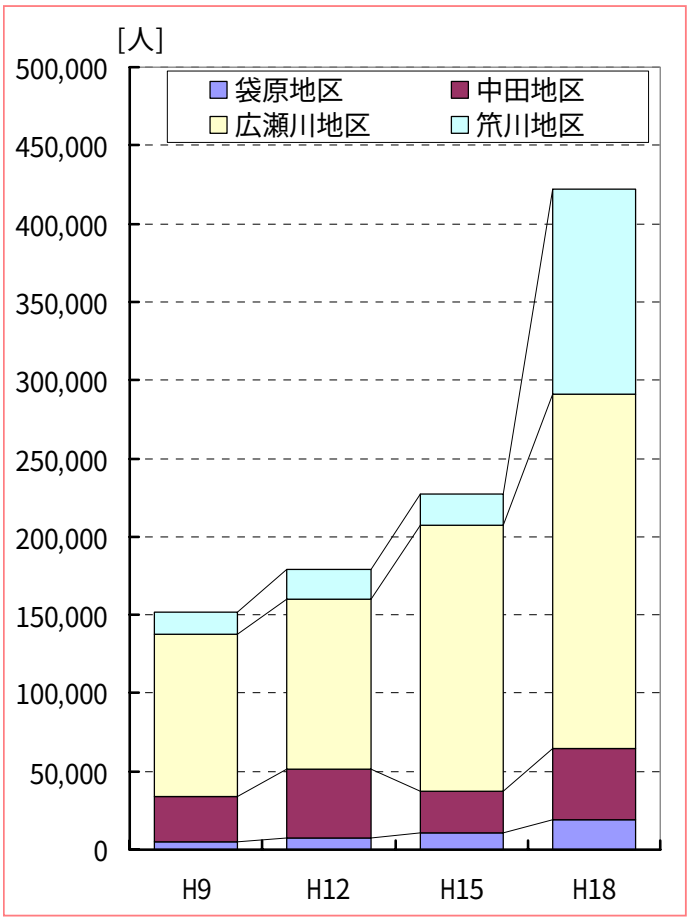
事業を巡る社会情勢等の変化

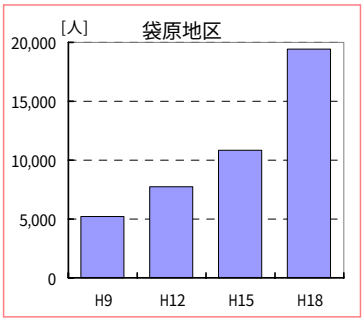
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

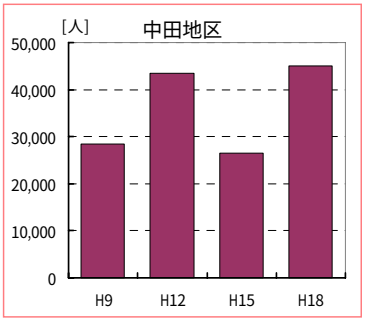
【整備前後の年間利用者数の変化】

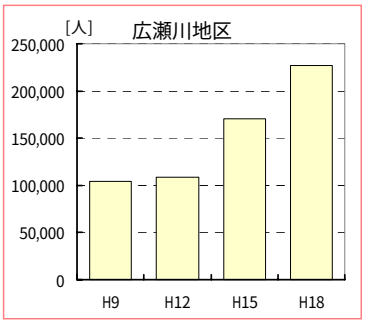
名取川における河川水辺の国勢調査による年間利用者数の推移は以下のとおりである。

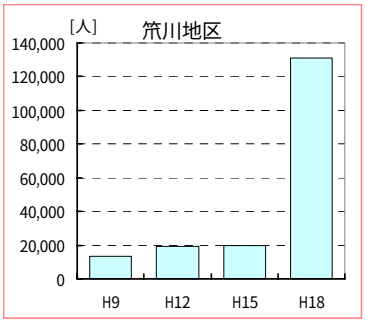
年　度	利用者数合計	事業実施区間			
		袋原地区	中田地区	広瀬川地区	笊川地区
		名取川 左岸 5～6k	名取川 7～8k	広瀬川 2～3.5k	笊川
平成 9 年度	151,483 人	5,221 人	28,444 人	104,233 人	13,585 人
平成 12 年度	179,467 人	7,763 人	43,466 人	108,741 人	19,497 人
平成 15 年度	227,378 人	10,864 人	26,438 人	170,406 人	19,670 人
平成 18 年度	422,424 人	19,420 人	45,028 人	226,942 人	131,034 人











事業の進捗状況

事業の進捗状況

環境整備事業進捗状況（平成 19 年度）

（１）全体事業費：19.9 億円

（２）平成 19 年度までの事業費：17.6 億円

（３）進　捗　率：88.3%

（４）残事業費：約 2.3 億円（平成 20～21 年度を予定）

名取川における環境整備事業のうち、平成 17 年度までに広瀬川水辺の楽校、袋原地区河道整備、中田地区河道整備、広瀬川地区水環境整備の 4 事業については完成・供用されている。

今後は、現在整備中である笊川地区利用推進事業、広瀬川地区利用推進事業を進め、平成 21 年度には、すべての事業が完了する予定である。

表　事業の進捗状況

事業進捗による整備箇所	● 広瀬川地区　水辺の楽校 ● 袋原地区　　河道整備 ● 中田地区　　河道整備 ● 広瀬川地区　水環境整備
残事業の状況	● 笊川地区　　利用推進 ● 広瀬川地区　利用推進

今後の事業の見通し

当該環境整備事業のうち、残事業については平成 21 年度の整備完了を予定している。

今後は、地域住民を主体とする水辺の楽校協議会を中心とした自然体験活動、市民団体、NPO 法人等による活動が活発になり、河川利用者が着実に増加し、名取川が地域の人々等の生活に密接なものとなるよう啓蒙に努めるものである。

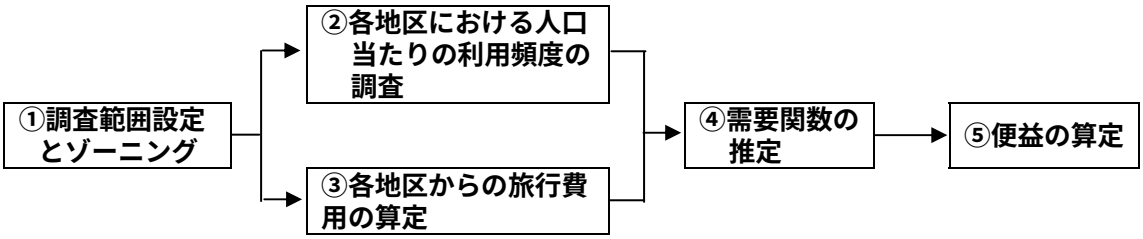
名取川水系における環境整備事業　工程表（案）

年度／地区	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
広瀬川地区　水辺の楽校	■	■										
袋原地区　河道整備		■										
中田地区　河道整備			■									
笊川地区　利用推進							■	■	■	■	■	
広瀬川地区　利用推進								■	■	■	■	■
広瀬川地区　水環境整備			■	■	■	■						

事業の投資効果

費用対効果分析

旅行費用法(TCM)による費用対効果分析では、原則として便益の及ぶ範囲を複数の地区に区分し、各地区からの利用頻度と旅行費用を推定し、需要曲線を作成して便益を算出する。

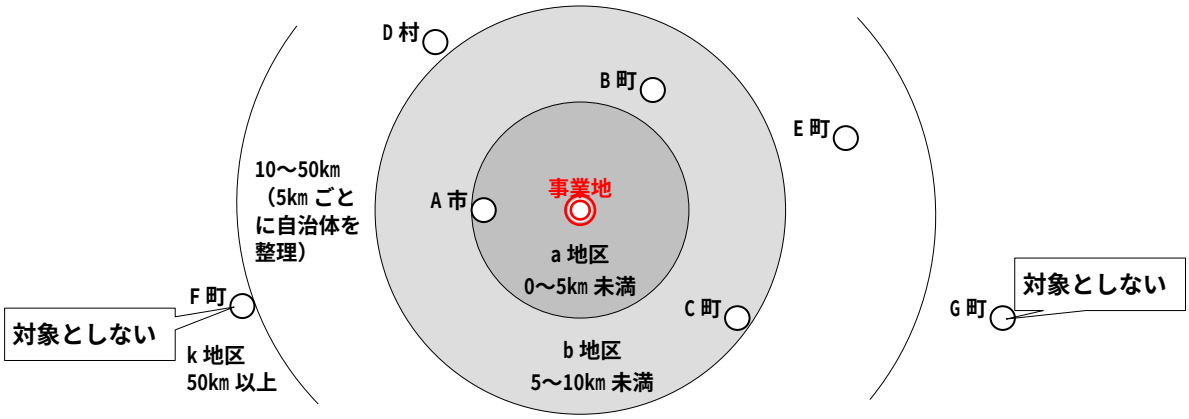


なお、今回対象の 6 事業のうち「広瀬川地区　水環境整備」については、その評価対象がレクリエーションの性質を有しておらず、非利用価値に属するものであることから、別途 CVM により分析を行うものとする。

① 調査範囲設定とゾーニング

事業地を目的地として、利用者が来訪すると判断される距離を事業の特性を考慮して設定する。次に事業地を中心とする同心円（例＞半径 5㎞・10㎞・15㎞･･･50㎞）を設定し、直線距離で距離内に市町村役場の位置する自治体（下のイメージ図では、F 町、G 町を除いた市町村）について、事業地からの距離を整理する（各ゾーンの中央値で代表させる。）。

＜エリア設定作業例＞



事業の投資効果

費用対効果分析

② 各地区における人口当たりの利用頻度の調査

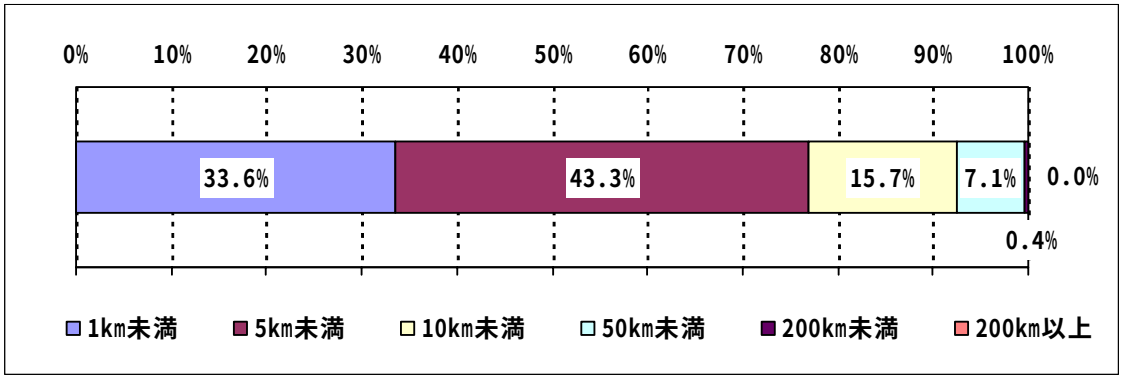
「河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）」により河川の地区別・利用目的別の利用者数等が調査されており、これをもとに年間利用者数が推計できる。過去の利用者数はこの推計値を使用する。

また、来訪者構成比については同調査実施時に行われるアンケート調査結果を用いる。

a 地区来訪者構成比(対数近似曲線値)×地区人口/全人口－①
b 地区来訪者構成比(対数近似曲線値)×地区人口/全人口－②
c 地区来訪者構成比(対数近似曲線値)×地区人口/全人口－③
・

Σ＝①＋②＋③＋･･･＝1.00 になるように補正し、入りこみ係数とする。
地区別年間利用者数＝年間利用者数×地区別入りこみ係数

距離別来訪者構成比整理



③ 各地区からの旅行費用の算定

車で移動するものとし、時速は 30㎞（自動車専用道路除く）とする。移動費用は、往復の移動距離に移動単価を乗じた値で、移動単価は 10 円/㎞ とする。時間費用は往復の移動時間に時間単価を乗じた値で、下式より算出する。

旅行費用＝事業地までの移動距離(㎞)×10(円/㎞)＋事業地までの所要時間(分)×時間単価(円/分)

また、時間単価は通常の賃金率の 1/2～1/4 に相当するとの知見があることから(松田(1985))、賃金率の 1/2 をもって時間価値とした。

【移動単価】
自動車の場合
走行速度 30[㎞/h]、燃費 10[㎞/l]、ガソリン単価 100[円/l]と仮定した。なお、駐車場代は含んでいない。

アクセス費用[円]＝公園までの所要距離[㎞]
×ガソリン消費単価[円/㎞]
ガソリン消費単価[円/㎞]＝10[円/㎞]

【時間単価】
公園利用などのレクリエーションに費やす時間の価値は、通常賃金率の 1/2～1/4 に相当するといわれており（松田(1985)）、賃金率の 1/2 をもって時間価値とした。

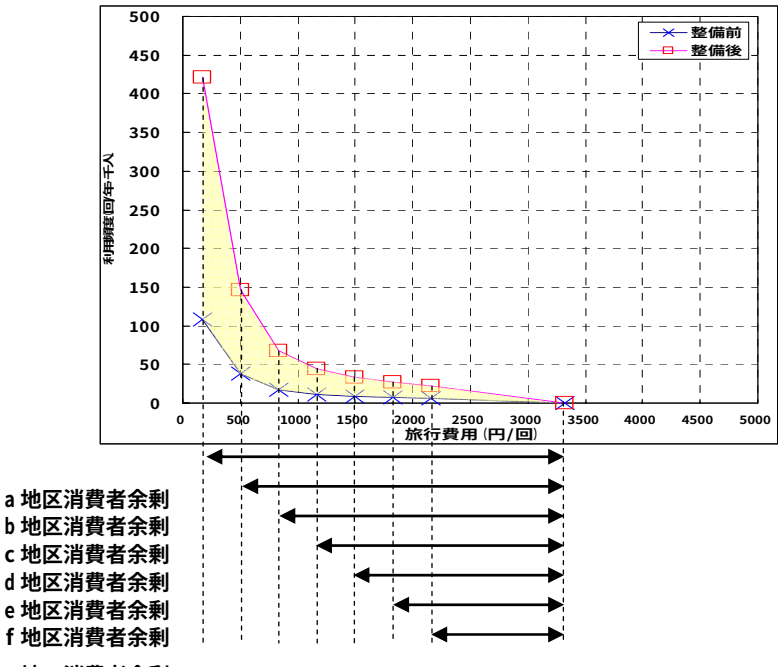
アクセス費用[円]＝公園までの所要時間[分]×時間価値[円/分]
時間価値＝賃金率[円/分]/2
＝年収[円]/年平均労働時間[分]/2

事業の投資効果

費用対効果分析

④ 需要関数の推定

消費者余剰は、整備前と整備後で増加した分を面積として、地区ごとに算出する。地区ごとの消費者余剰に地区人口を乗じ、便益を算出する。各地区の便益を合計したものが当該事業の便益となる



a 地区消費者余剰
b 地区消費者余剰
c 地区消費者余剰
d 地区消費者余剰
e 地区消費者余剰
f 地区消費者余剰

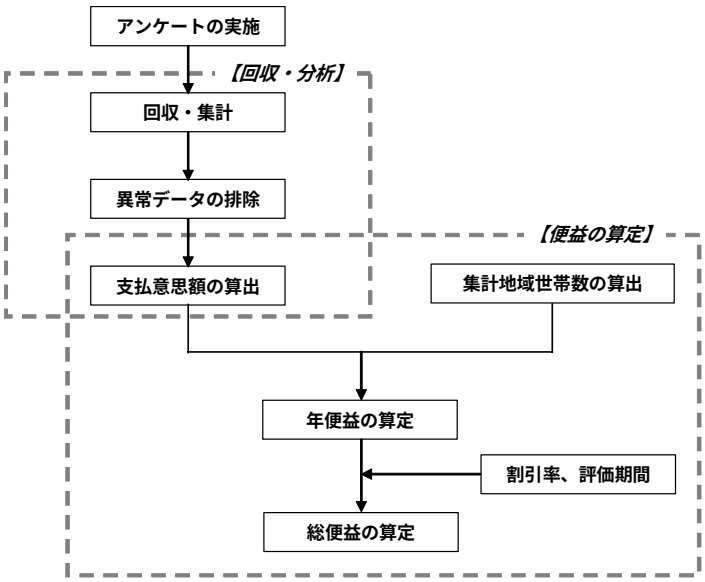
⑤ 便益の算定

各地区の便益の総和が当該事業の便益となり、総費用は事業費と維持管理費を現在価値化して合計したものである。評価対象期間（整備期間＋50 年）終了時点の施設に残存価値が認められる場合は、現在価値化したものを便益として計上する（今回は計上していない。）。なお、現在価値化に用いる社会的割引率は 4%とした。

事業の投資効果

費用対効果分析

仮想市場法(CVM)による費用対効果分析では、便益の及ぶ範囲を対象に行ったアンケート調査を基に支払意思額を求め、支払意思額と調査範囲内の世帯数との積により便益を算出する。

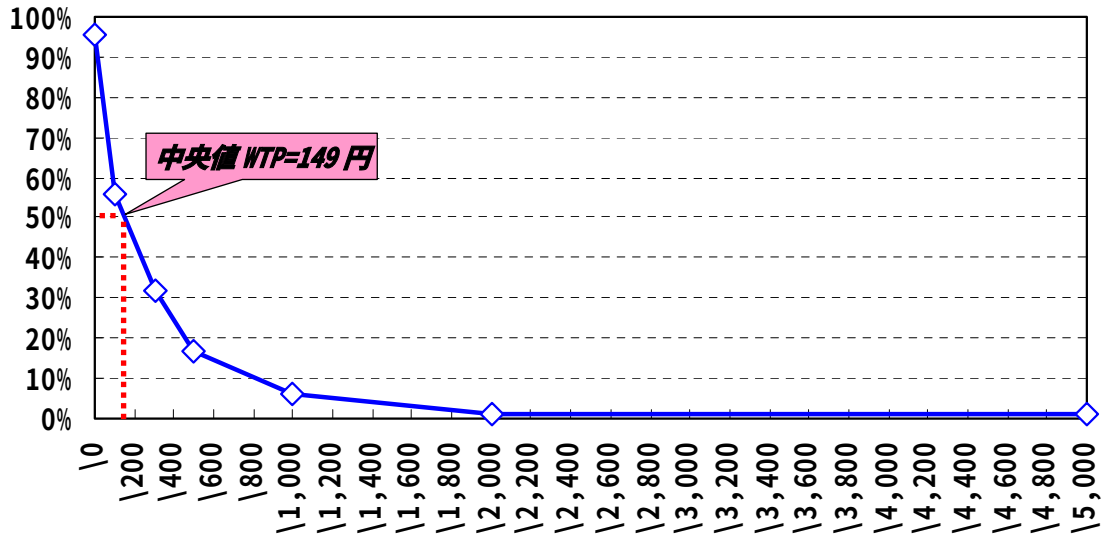


① アンケート調査の概要

	項　目	設　定　内　容
アンケート調査	アンケートの実施方法	確実に必要なサンプルが確保できる「訪問面接」方式を採用
	標本数	既往の研究結果参考に、500 票を設定
	対象地域	当該事業区域から半径 5km を目安として設定
アンケート票の作成	支払い形態	河川環境に関する便益計測で最も多く用いられている「負担金」を採用
	支払い方法	給与生活者等は月給制が多く、イメージしやすい「月払い」を採用
	支払い意思額の設問方式	事業評価の際には安全側（低め）の評価に繋がるなどのことから、「一対比較方式」を採用
	支払い意思額の判断理由	異常データを排除することを目的とし、支払意思額に関する判断理由の設問を設定

② 支払意思額の算定

アンケート結果より賛同率曲線を作成し、その中央値を当該事業に対する支払意思額として設定



事業の投資効果

費用対効果分析

③　便益の算定

支払意思額と世帯数との積が当該事業の便益となり、総費用は事業費と維持管理費を現在価値化して合計したものである。評価対象期間（整備期間＋50 年）終了時点の施設に残存価値が認められる場合は、現在価値化したものを便益として計上する（今回は計上していない。）。なお、現在価値化に用いる社会的割引率は 4%とした。

事業の投資効果

費用対効果分析

【事業全体の費用便益比】

本事業すべての事業を対象に、基準時点は平成 19 年度、償却年数を事業期間＋50 年、社会的割引率を 4%とした場合の便益（B）及び費用（C）を現在価値化し、B/C を算出した。

事業全体の費用便益比

建設費（億円）	維持管理費（億円）	総費用 C（億円）	総便益 B（億円）	B/C
23.4	16.0	39.4	149.1	3.8

注 1：評価事業の終了（予定）年次

広瀬川地区	水辺の楽校（平成 11 年度）
袋原地区	河道整備(平成 11 年度)
中田地区	河道整備(平成 12 年度)
広瀬川地区	水環境整備(平成 15 年度)
笊川地区	利用推進(平成 20 年度)
広瀬川地区	利用推進(平成 21 年度)

注 2：残存価値について

評価期間を 50 年としているため、それ以降の発生する環境整備事業による残存価値は少ないこととし、計算上、残存価値は見込んでいない。

注 3：維持管理費について

広瀬川地区　水辺の楽校事業の維持管理費として、仙台市公園課の除草費(830 万円/年)を適用する。

その他の事業については、維持管理費の実績値がないため、先行事例に基づき建設費の 0.5%/年を見込んでいる。なお、広瀬川地区　水環境整備事業の維持管理費については、建設費の 0.5%/年に加え、上流にある釜房ダムの水環境改善事業費を計上する。

事業の投資効果

費用対効果分析

技術指針に基づき事業の投資効率性を試算した結果は下表のとおりである。

		金　額	摘　要
C 費用	総事業費		
	建設費　※1	23.4 億円	現在価値化した値
	維持管理費　※2	16.0 億円	現在価値化した値
	費用合計	39.4 億円	現在価値化した値
B 効果	総便益		
	便益　※3	149.1 億円	現在価値化した値
	残存価値　※4	0 億円	
	効果合計	149.1 億円	現在価値化した値
	費用対便益比(CBR) B/C　※5	3.8	
	純現在価値化(NPV) B-C　※6	109.7 億円	
	経済的内部収益率(EIRR)　※7	22.3%	

【C：費用】

※1：総事業費用から社会的割引率：4%を用いて現在価値化し、費用を算定。

※2：評価対象期間内（整備期間＋50 年間）での維持管理費を社会的割引率：4%を用いて現在価値化を行い算定。（実績値のないものについては、建設費の 0.5%/年）

【B：効果】

※3：整備により利用者数の増加傾向を旅行費用に換算／算出し、評価対象期間（整備期間＋50 年間）を社会的割引率：4%を用いて現在価値化し算定。

※4：評価対象期間後（50 年後）の施設及び土地を現在価値化する。

ただし、環境整備事業としては 50 年後以降に残る価値は微小と考えて、残存価値を 0 として取扱い費用対効果を算出している。

【投資効率性の 3 つの指標】

※5：総費用と総便益の比（B/C）。投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。
（1 以上であれば、投資効率性がよいと判断。）

※6：総費用（C）と総便益（B）の差（B－C）。事業の実施により得られる実質的な便益額を把握するための指標。
（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いに影響を受ける。）

※7：投資額に対する収益性を表す指標。今回、設定した社会的割引率（4%）以上であれば、投資効率性がよいと判断。
（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い。）

【その他】

現在価値化：ある一定期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことにより、現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の利回りを参考に 4%と設定している。

地域の協力体制等

【地域の協力体制】

●仙台市のシンボルとも言える川であり、仙台市は「広瀬川の清流を守る条例」を施行（昭和 49 年 9 月）し、広瀬川の流域では河岸の自然環境を守るための「環境保全区域」、水質を守るための「水質保全区域」を指定している。

●「広瀬川水辺の楽校」で整備された広大な河川敷は、緑地公園として仙台市が占用し、行政及び地域住民、市民団体の連携による維持管理（定期的な清掃活動）が適切に行われている。

（河川清掃活動）

・八本松町内会、八本松地区町内会、八本松マンション、子供会、老人会等により毎年 7 月～11 月に月 1 回の河川清掃を実施しており、年間延べ参加者数は約 700 名である。

・仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会〈河川愛護会〉として、4 月～11 月に月 1 回の河川清掃を実施しており、年間延べ参加者数は約 1,600 名である。

（維持管理）

・太白区公園課が占用部分（八本松緑地）を管理、年 2 回の除草を実施（450 万円/年）。

・若林区公園課が占用部分（若林緑地）を管理、年 4 回の除草を実施（380 万円/年）。

●“笊川環境整備懇談会”・“広瀬川利用環境改善意見交換会”などの協議会に地元住民が積極的に参加し、整備に関する意見交換が盛んに行われている。



地域住民との連携による清掃活動



現地視察の状況



住民主体で構成された懇談会による計画検討



笊川の環境美化活動を終えて記念撮影

地域の協力体制等

【事業による効果（社会的評価）】

●「親水施設整備」や「水辺へのアプローチの改善」により、水辺は身近なものとして生まれ変わり、自然体験学習のフィールドとして河川空間が活発に利用されるようになった。

・八本松小学校や宮城県立聾学校では、年間 5 回程度、総合学習などで利用しており、その利用者数は、年間約 250 名にのぼる。

・若林小学校では、年間 5 回程度、総合学習などで利用しており、その利用者数は、年間約 600 名にのぼる。



「自然観察会の様子」（総合学習）



「水生生物調査」（総合学習）



笊川で遊ぶ子供たち



「カヌー体験会」(総合学習)

●水辺空間が整備され、いろいろなイベント等が催されるようになり、人々の交流の場としての活用が増え、これに伴い市街地が活性化している。

・政宗さんの川狩り（NPO 法人　広瀬川の清流を守る会主催）の年間参加者数約 200 名にのぼる

・夏祭り・新笊川で遊ぼう（三栄会（富沢・長町南外）地域振興会主催）の集客数約 7,000 名にのぼる



「政宗さんの川狩り」の様子



「政宗さんの川狩り」の様子

※「政宗さんの川狩り」：ＮＰＯ法人「広瀬川の清流を守る会」が主催となって、広瀬川の一部をネットで仕切り、放流したアユを手づかみや網で捕って、塩焼きにして食べるという、楽しいイベントである。今年で８回目を迎えた。

地域の協力体制等



「夏祭り・新笊川で遊ぼう」の様子



「夏祭り・新笊川で遊ぼう」の様子

※「夏祭り・新笊川で遊ぼう」：地元地域振興会で組織される「三栄会」の創立記念事業として、地域の人々と交流を図り、地域発展に寄与するイベントを開催。アユのつかみ取り、ミニＳＬ体験コーナー、ブラスバンド演奏会など様々なイベントがあり、人で大賑わいになる。

【河川利活用・管理の年間スケジュール】

主なイベント・清掃活動等		
1月	○広瀬川初歩き（NPO 法人 広瀬川清流を守る会）	《清掃活動》 ・河川清掃（3 月～12 月に 1 回） [郡山堰から広瀬橋周辺] (NPO 法人 広瀬川清流を守る会) ・仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会 （4 月～11 月に月 1 回） [八本松小学校から千代大橋までの河川敷] （郡山千代大橋町内会） ・広瀬川八本松緑地公園並びに広瀬川河川敷清掃 （4 月～11 月に月 1 回） [八本松地区広瀬川河川敷公園] （八本松マンション町内会） ・広瀬川清掃（4 月～11 月に月 1 回） [千代大橋右岸下流] （東郡山新々田町内会） ・河川公園のゴミ拾い（4 月～11 月に 1 回） [若林緑地公園] （若林広瀬親交町内会） 《自然体験活動》 ・広瀬川親子自然体験活動（4 月～2 月） (NPO 法人 水環境ネット東北) ・カヌー協会によるカヌー体験(不定期) ・ホタルの里づくり支援事業（通年)[大野田小] (NPO 法人 広瀬川清流を守る会) ・総合学習（八本松小学校、若林小学校 他）
4月	●広瀬川および八幡地区清掃[終了後お花見会] (NPO 法人 広瀬川清流を守る会)	
5月	○広瀬川で遊ぼう（広瀬川市民会議） ●笊川環境美化体験会（笊川環境整備懇談会）	
6月	●広瀬川の流域を歩く（広瀬川市民会議）	
7月	●ホタル観察会（広瀬川清流を守る会） ●名取川河川敷清掃[東北本線と旧 4 号線の間] (名取川中流部の環境整備を考える会)	
8月	●政宗さんの川狩り（NPO 法人 広瀬川清流を守る会） ○広瀬川灯ろう流し（広瀬川灯ろう流し実行委員会） ○仙台笹舟プロジェクト（NPO 法人 笹舟） ○仙台七夕花火祭（社団法人仙台青年会議所） ●夏祭り・新笊川で遊ぼう（三栄会）	
9月	●広瀬川１万人プロジェクト～広瀬川一斉清掃～ (広瀬川１万人プロジェクト実行委員会)	
10月	●太白ウォッチング（仙台市富沢市民センター） ●笊川環境美化体験会（笊川環境整備懇談会）	
11月	●笊川体感探検隊（宮城学院女子大学）	

●事業実施区間内のイベント、○事業実施区間周辺のイベント

地域の協力体制等



「笊川体感体験会」の様子



「太白ウォッチング」の様子

《河川整備に対する近隣住民の反応【住民の喜びの声】》

●整備状況はすこぶる良好と思う。この区間の散策路を整備し、親水テラスを改修したことにより散歩・ウォーキングをする市民が多くなり、又、子供達も水に親しむ機会が増えた。笊川の流れは以前に比べ格段に良くなった。流域に住む我々にとっては本当に喜ばしいことである。
（富沢中町内会長　浅川氏）

●以前、この辺一帯ではホタルは目につかなかったが、ここ最近、新笊川でもホタルが見られるようになった。又，沿川に住む子供たちが笊川の中に入って遊ぶ姿が目につくようになった。
（西大野田町内会副会長　森氏）

● 仙台市長町周辺では、バリアフリー化を積極的に推進した各種まちづくり事業が展開され、住民構想としても車椅子を利用したタウンモビリティ構想を持っており、今回の整備事業により移動しやすくなり､自立支援センター｢CIL たすけっと｣をはじめとする障がい者支援団体の活用が増え、障がい者や高齢者などの利用が拡大している。

● 積極的に対話を重ねたことで、地域住民の河川環境整備への理解が深まるとともに地域住民との信頼関係が構築された。



障がい者の方々による
現地視察の様子

● 「川の通信簿」では、「三つ星」（かなり良い部分があり一定の満足感を味わえる）という評価を得ている。特に、“ 水のきれいさ ” と “ 自然環境の良さ ” として挙げられている。

対応方針

原案：事業継続

名取川直轄総合水系環境整備事業により、これまで整備した地区では、多様な利用形態、利用頻度の向上、関連自治体の協力体制の整備、地域住民の自発的活動の創出がされているなど、事業の効果が認められる。

今後、整備を予定している地区についても、地元自治体等からの事業促進の要望活動が行われるなど、事業の推進が期待されている。